

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	西山 正行
論文担当者	主査 石原 正治
	副査 新村 健
	副査 長谷川 誠紀
学位論文名	Long-term outcomes of combined pulmonary endarterectomy and additional balloon pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension (慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する血栓内膜摘除術と術後バルーン肺動脈形成術の遠隔期成績)
論文審査の結果の要旨	
<p>慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) は器質化した肺動脈内血栓により肺高血圧 (PH) を呈した病態で、予後不良の難治性疾患である。近年の超低体温・循環停止法を併用した肺動脈血栓内膜摘除術 (PEA) は中枢型 CTEPH に対する第一選択の治療法であるが、PEA 後に問題となる残存肺高血圧に対する治療としてのバルーン肺動脈形成術 (BPA) の有用性は明らかではない。本研究では過去 20 年に国立循環器病研究センターで CTEPH に対して PEA を施行した 222 例を対象に後方視的に検討した。PEA 後の院内死亡は 9 人 (4.0%) であった。術後 mPAP <math>23.4 \pm 13</math> mmHg (<math>p=0.001</math>)、PVR <math>419 \pm 291</math> dyne/sec/cm<sup>-5</sup> (<math>p=0.001</math>)、BNP72 [4.6-401] pg/ml、CI <math>2.5 \pm 0.5</math> L/min/m<sup>2</sup>、RVEF <math>41.6 \pm 10.4\%</math>、6 分間歩行試験 438 [110-675] m と改善を認めた。遠隔期死亡は 13 人で、生存退院者の 5、10 年生存率は 96.5% 94.1% であった。再発により再手術を有したのは 2 人であった。残存 PH は術 1 ヶ月後 73 人 (35.7%)、1 年後は 51 人 (33%) に認めた。術後 BPA を 62 人 (27.9%) に施行し、施行までの期間は 4.1 [0-20] 年であった。PEA 後に BPA を行うことにより mPAP <math>26.5 \pm 9.1</math> mmHg (<math>p=0.001</math>)、PVR <math>427 \pm 2234</math> dyne/sec/cm<sup>-5</sup> (<math>p=0.001</math>) と改善を認めた。また残存 PH の有無に関わらず、BPA により mPAP と PVR の改善が得られた。術後呼吸器疾患関連死亡は認めなかった。</p> <p>以上より PEA の早期、長期成績は良好であったが、さらに、術後残存 PH は BPA により改善が得られ、長期生存率も良好であった。PEA を第一選択とし、PEA 術後の残存 PH に対して BPA を併用する治療戦略は妥当であると考えられた。</p> <p>本研究の成果は、CTEPH に対する PEA と、PEA 術後残存 PH に対する BPA に関する有意義な知見であり、学位授与に値すると判断した。</p>	